



日赤茨城

発行所 日本赤十字社茨城県支部

No. 139

平成16年12月
発行〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2551 URL <http://www.jrci.jp>
TEL (029) 241-4516 FAX (029) 241-4714

新潟県中越地震に 医療救護班を派遣



10月23日(土)、新潟県中越地方を中心に発生した地震に対し、日本赤十字社では医療救護班(医師、看護師、薬剤師、心のケアスタッフ、管理要員で構成)を延べ119班、927名のスタッフを派遣し、11,352人の被災者の方を対象に診療活動を行ってまいりました。

被災者の方の主な症状は、かぜ、打撲・捻挫等外傷、高血圧、ストレス症状などが多くを占めています。

また、日本赤十字社茨城県支部としてもこれまでに、医療救護班、防災ボランティア、物資搬送要員など50名を派遣し、診療活動や心のケア活動にあたっています。

今後も水戸・磐城赤十字病院・血液センター・支部一丸となって医療救護班などを派遣し、被災者の方への支援を継続していきます。

(数字は、11月29日現在のもの)

日本赤十字社茨城県支部の新潟県中越地震における医療救護班等の派遣実績

	派遣期間	派遣先	内容
①	10月26日～28日	十日町市	医療救護班の派遣。(水戸赤十字病院医療救護班) 診療活動及び心のケア活動を実施。
②	10月30日～11月2日	小千谷市	救援物資搬送要員の派遣。 日本赤十字社で購入した防寒着30,000着等を被災者へ配布。
③	11月1日～3日	十日町市	医療救護班の派遣。(水戸赤十字病院医療救護班) 診療活動及び心のケア活動を実施。
④	11月3日～6日	小千谷市	現地災害対策本部支援要員の派遣。
⑤	11月6日～8日	小千谷市	医療救護班の派遣。(磐城赤十字病院医療救護班) 診療活動及び心のケア活動を実施。
⑥	11月9日～12日	日赤 新潟県支部	現地災害対策本部支援要員の派遣。
⑦	11月16日～18日	小千谷市	医療救護班の派遣。(水戸赤十字病院医療救護班) 診療活動及び心のケア活動を実施。
⑧	11月21日～24日	小千谷市	現地災害対策本部支援要員の派遣。
⑨	11月26日～28日	小千谷市	医療救護班の派遣。(磐城赤十字病院医療救護班) 診療活動及び心のケア活動を実施。
⑩	11月30日～12月4日	長岡市	心のケア要員の派遣。(磐城赤十字病院 看護師) 心のケア活動を実施。
⑪	12月6日～8日	小千谷市	医療救護班の派遣。(水戸赤十字病院医療救護班) 診療活動及び心のケア活動を実施。
⑫	12月12日～15日	小千谷市	現地災害対策本部支援要員の派遣。
⑬	12月12日～16日	長岡市	心のケア要員の派遣。(水戸赤十字病院 看護師) 心のケア活動を実施。



医療救護班要員からの報告

私は、10月26日（火）～28日（木）の間、救護班調整員として十日町市に派遣されました。

長引く避難生活による不安・緊張とストレスがたまり始めている時期で、それを取り除くことが重要だと感じました。

普段とは大きく違う生活からくるストレスを取り除くには、専門的な知識によるカウンセリングばかりではなく、とにかく胸の内を言葉として吐き出すことが大切です。

救護所に来て、医師や看護師と会話することで、気を落ち着かせて戻られる方も多数おられ、赤十字が避難所に救護所を設けることは、重要であると感じました。

また、多くのボランティアが、被災された方々のために活動され、支えになっている姿に感銘を受けました。

幸いなことに、茨城県は災害が少ない地域ですが、もし災害が起こったら赤十字ばかりではなく多くのボランティアの支えが必要となってきます。赤十字の役割とボランティアの必要性を感じました。



新潟県中越地震 青少年赤十字による災害義援金募金活動

11月3日（水）、水戸地区青少年赤十字高校生連絡協議会の主催で、水戸駅の北口と南口において、新潟県中越地震災害義援金募金活動を行いました。

これは、「新潟地震の被災者の方々に高校生としてできる限りのお手伝いをしよう」と生徒から企画・提案されたもので、約30名の生徒が集まり、大きな声で呼びかけを行いました。この活動で、34万7,625円の善意が集まる大きな成果となり、皆様の善意をおあずかりした高校生達が、その日のうちに日赤茨城県支部に寄託しました。

実際に新潟でボランティア活動をしたいという気持ちを持った生徒も多く、新潟県中越地震に対する関心は非常に高いもので、今回限りではなく、今後も何らかの形で活動を続けていきたいと話していました。



義援金の募集をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

郵便局口座

義援金名称/受付期間	義援金受入口座（郵便局窓口は手数料無料）	
新潟県中越地震災害義援金 平成16年12月30日まで	名義 口座番号 通信欄	日本赤十字社新潟県支部 00530-2-2000 「新潟地震」
京都府台風23号被災者義援金 平成16年12月30日まで	名義 口座番号 通信欄	日本赤十字社京都府支部台風23号義援金 00900-6-1246 記入なし
台風23号兵庫県被災者義援金 平成16年12月30日まで	名義 口座番号 通信欄	日本赤十字社兵庫県支部 00930-0-1207 「台風23号兵庫県被災者義援金」
三宅島災害義援金 平成16年12月30日まで	名義 口座番号 通信欄	日本赤十字社東京都支部 00130-5-7883 「三宅島災害義援金」

各義援金は当支部でも受付しておりますので、下記までご連絡ください。



○お問合わせは○
**日本赤十字社
茨城県支部
経営課** まで

水戸市小畷町255-1
電話
029-241-4516

命を守る+赤十字救急法

平成16年度赤十字救急法フェスティバルの開催



第1競技 三角巾包帯ソリレー

十月三十一日(日)、水戸市総合体育館において日本赤十字社茨城県支部では初めての試みとして、赤十字救急法フェスティバルが行われました。

これは、県民の方々へ赤十字救急法の普及を図ることを目的に、三角巾使用による手当て(本結び・包帯法・固定法)の競技会で、奉仕団員、青少年赤十字メンバーに混じり一般の方からも参加をいただき、参加者は総勢四〇〇名ほどとなりました。

参加者はこれまで練習してきた成果を発揮しようとして、真剣な表情で傷病者役のチームメイトに手当てを行い、競技は白熱したものとなりました。

また、会場内は鳴り物での応援やアトラクションとして、古河市赤十字奉仕団によるコーラス、茨城交響楽団によるオーケストラ演奏など大いに盛り上がりしました。

参加者からは、「練習の成果を十分発揮でき、とても楽しみながら参加できた。来年も参加して、今度は優勝をしたい。」との感想もあり、盛況のなかフェスティバルを終えることができました。

地域に安心と喜びを ～小川町赤十字奉仕団の活動～

小川町赤十字奉仕団 石塚 千鶴子

小川町赤十字奉仕団は、昭和62年11月に28名をもって発足しました。

発足当時は、研修会への参加や福祉の専門家を招いての勉強会などを開き活動を模索していました。

今ではその甲斐あって、地域のニーズに応じた活動に団員がもつそれぞれの技術を活かした活動をしております。

特に私たちが長年継続している活動が日赤乳児院へ、よだれ掛けや布団カバーを縫って贈る活動です。こども達が喜ぶ姿を想像しながら、団員のやさしい気持ちを一つにしてこの作業に取り組んでいます。

この他に、養護老人ホームでの洋裁教室の開催、地域の高齢者などを対象とした安否調査や給食サービスなどを実施しています。

これらの活動を行うことによって、地域の方が安心し感謝していただいております。私たちにとっても大きな喜びとなっています。

これからも多くの方々喜んでいただけるよう、時代の変化に応じた奉仕活動を継続していきたいと思っております。

敬老会招待奉仕



家庭看護法指導員養成講習会を開催

日本赤十字社では、健やかな老年期を過ごすために必要な知識や技術をはじめ、在宅や地域で高齢者が自立した日常生活が出来るような介護の方法を学ぶ家庭看護法講習会を普及しています。今年も、より一層の普及を目指し当支部では初めて家庭看護法指導員養成講習会を開催し、九名の新しい指導員が誕生しました。

高齢者介護において本人の主体性や意思を尊重し、自立を目指すことの大切さを伝えることが出来るよう、知識や技術を学び、気持ちを新たに指導に当たることと思っております。新指導員の感想を一部抜粋してご紹介します。

介護・看護の現場で仕事をしていても、この講習を通して正しい知識を正確に理解することの大切さ、また自分では理解していても、人に伝え、相手に理解してもらうことの大変さを痛感しました。今まで行ってきた介護や看護が、自立まで考えた上で、手伝う、援助するということだったのかとても疑問に思いました。家庭看護法の奥の深さに戸惑いましたが、同時に学び続けていくことへの関心も深まりました。同時に皆様もぜひ家庭看護法講習会にご参加下さい。



NHK海外たすけあいキャンペーンのお知らせ

NHK海外たすけあいキャンペーンは、海外で発生した災害や紛争による被災者等を支援するとともに開発途上国の開発協力を行うためのキャンペーンです。毎年12月1日から12月25日まで日本赤十字社とNHKが共同で行っており、今年も救援金の募集をしています。

日本赤十字社茨城県支部、NHK水戸放送局の窓口のほか、常陽銀行・関東つくば銀行・農協・漁協の各本支店でも受付しております。また、郵便振替の専用用紙もございますので、お気軽に当支部経営課までお問い合わせください。

最後の“ときなし祭”

水戸赤十字看護専門学校

去る10月17日、台風一過の秋晴れの下、患者様やそのご家族、ご近所の方々、学生の家族、友人等大勢の方々をお迎えし、学校祭“ときなし祭”が盛大に開催されました。

日本赤十字社において看護教育の大学化が進められ、当校は、今年度の入学生をもって学生募集が中止となり、三学年揃っての“ときなし祭”は今年が最後となりました。

恒例のハザーや喫茶・食堂、茶道部の茶会や看護学生ならではの足浴・指圧等が企画され、さらに、多くの患者様にも楽しんでいただける様、弦楽四重奏のコンサートが催されました。♪ディズニーメドレーや♪世界にたった一つだけの花他、おなじみの曲に加え、“ときなし祭”の名のルーツである室生犀星作詞・磯辺徹作曲♪ときなし草の合唄も披露されました。

赤十字コーナーでは、テントを設営し、健康チェックや非常時に役立つ備品の展示・非常食炊き出しの実演が行われました。

最後に、学生・教員全員で、バルーンリリースを行い、思い出と共に願い事を書いた手紙を風船に託し“ときなし祭”を閉じました。



病院内にコンビニオープン

積島赤十字病院では、患者様の利便性をはかるために10月1日（金）、病院正面玄関内にコンビニショップをオープンしました。お昼ときにはパンをお求めになる患者様でいっぱいになり、通常時は飲料水や菓子類といった商品が人気のようです。コンビニ業界で培ってきた流通管理は従来の売店と違い商品の補充がさくので患者様にも好評を博しています。



「皮膚の日」 市民公開講座を開催

11月6日（土）、水戸赤十字病院において、「皮膚の日」市民公開講座を開催しました。

日本臨床皮膚科医会が11月12日を「いいひふ」というゴロ合わせで「皮膚の日」と定め、毎年この日を中心に、全国各地において皮膚に関する講演会や相談等が開催されています。

本年、茨城県では当院が当番となり、皮膚科専門医による講演会を開催しました。

お問い合わせ先… 日本赤十字社茨城県支部 TEL. 029-241-4516